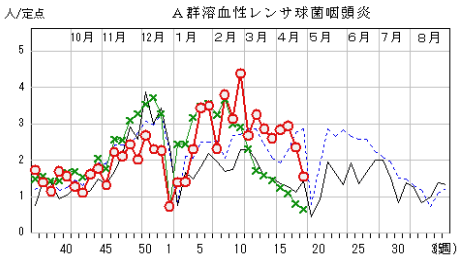
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2020年第18週　　2020年４月27日（月）～2020年５月３日（日）　2020年5月11日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

（１）　Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

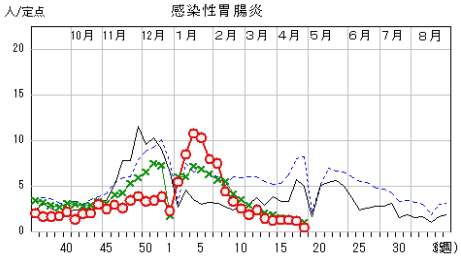
第18週の報告数は68人で、前週より36人少なく、 定点当たりの報告数は1.55であった。
年齢別では、２歳（11人）、６歳（10人）、３歳（8人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（5.17）、対馬保健所（3.50）、県北保健所（2.00）であった。



（２）　感染性胃腸炎

第18週の報告数は21人で、前週より31人少なく、 定点当たりの報告数は0.48であった。
年齢別では、10～14歳（4人）、１歳（3人）、４歳（3人）の順に多かった。

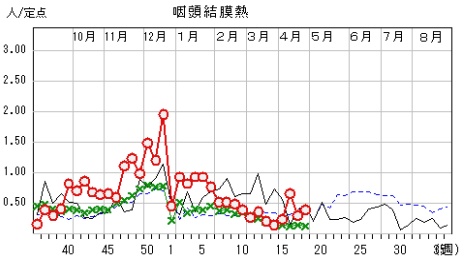
定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（2.00）、県央保健所（0.83）であった。



（３）　咽頭結膜熱

第18週の報告数は17人で、前週より4人多く、 定点当たりの報告数は0.39であった。
年齢別では、１歳（12人）、２歳（2人）、1歳未満（1人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（1.20）、対馬保健所（1.00）であった。



当年(長崎県)　前年(長崎県)
当年(全国)　前年(全国)

☆上位３疾患の概要

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
第18週の報告数は、前週より36人減少して68人となり、定点当たりの報告数は1.55でした。地区別にみると、県央地区（5.17）は、他の地区より多くなっていますが、前週より減少し、警報レベル開始基準値「8.0」を下回りました。他の地区でもほとんどが前週より減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】
第18週の報告数は、前週より31人減少して21人となり、定点当たりの報告数は0.48でした。地区別にみると、壱岐地区、対馬地区、五島地区以外から報告があがっていますが、県全体で減少傾向にあります。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【咽頭結膜熱】
第18週の報告数は、前週より4人増加して17人となり、定点当たりの報告数は0.39でした。地区別にみると、長崎地区（1.20）、対馬地区（1.00）は他の地区より多い状況です。
本疾患は発熱、咽頭炎、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、眼脂等の眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症であり、数種の型のアデノウイルスが原因となります。通常飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染で、結膜あるいは上気道から感染します。予防のためには感染者との密接な接触を避け、うがいや手指の消毒を励行しましょう。

☆トピックス：県内で重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が発生しました

2020年第17週までに県内で２例の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が発生しました。SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染し、主な症状は発熱、消化器症状で重症化して死亡することもあります。ワクチンや有効な抗ウイルス薬はなく、治療としては対症療法が主体になります。
ダニが媒介する感染症は、SFTSの他にマダニ類が媒介する「日本紅斑熱」やツツガムシ類が媒介する「つつがむし病」があります。マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、食品等に発生するコナダニや衣類、寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。
春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期ですので、野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがありますので、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。 また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

（参考）長崎県　重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について
https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2020/04/1587688053.pdf

（参考）長崎県医療政策課　ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」
https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/

（参考）厚生労働省　重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

☆トピックス：県内でこれまでに17例の新型コロナウイルスの感染者が確認されています

2020年5月10日までに、長崎県では17例の新型コロナウイルスの感染者が確認されています。
また、長崎市に停泊中の外国船籍の船内で149名の感染者が確認されました（5月4日時点）。

2020年4月7日に出された「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」について、4月16日に対象地域が全都道府県に拡大されました。不要不急の外出は控え、換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面など感染しやすい環境（3 密）に行くことは避けましょう。
新型コロナウイルス感染症の感染予防には、外出後の手洗い、定期的な換気、「咳エチケット」の徹底が有効です。自己への感染を回避するとともに、他人に感染させないよう徹底しましょう。

～　咳エチケット　～
- 人に向けて咳やくしゃみをしない
- マスクの着用（咳をしている人には着用を促す）
- マスクのない場合は、口と鼻をティッシュなどで押さえる
- 使用したティッシュは、すぐにゴミ箱へ捨てる
- 咳やくしゃみを受け止めた手は、すぐに洗う

（参考）長崎県　新型コロナウイルス感染症について
https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/corona_nagasaki/

（参考）内閣官房　新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言
https://corona.go.jp/

（参考）厚生労働省　新型コロナウイルスを防ぐには
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000599643.pdf

（参考）厚生労働省　３つの密を避けましょう
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000614802.pdf

（参考）厚生労働省　新型コロナウイルス感染症について（外部のページに移動します。）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

長崎県における新型コロナウイルス感染症発生状況

	管轄保健所	年齢・性別	類型	診断週
1	壱岐保健所	30歳代・男性	無症状病原体保有者	第11週
2	西彼保健所	20歳代・男性	患者	第13週
3	佐世保市保健所	70歳代・男性	患者	第14週
4	県央保健所	60歳代・女性	患者	第14週
5	壱岐保健所	30歳代・女性	患者	第14週
6	県央保健所	50歳代・男性	患者	第14週
7	佐世保市保健所	20歳代・男性	患者	第14週
8	佐世保市保健所	40歳代・男性	患者	第14週
9	壱岐保健所	70歳代・女性	患者	第14週
10	壱岐保健所	90歳代・女性	患者	第14週
11	壱岐保健所	60歳代・女性	患者	第14週
12	壱岐保健所	70歳代・女性	患者	第14週
13	県北保健所	70歳代・女性	患者	第15週
14	佐世保市保健所	60歳代・女性	患者	第15週
15	長崎市保健所	30歳代・男性	患者	第16週
16	佐世保市保健所	20歳代・男性	患者	第16週
17	佐世保市保健所	30歳代・男性	患者	第16週

◆全数届出の感染症

1類感染症:報告なし

2類感染症: 報告なし

3類感染症:報告なし

4類感染症:レジオネラ症　患者　男性(80代以上・1名)

5類感染症(全数把握対象):報告なし

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1)　疾病別・週別発生状況　　(第13～18週、3/23～5/3)

疾　患　名	定点当たり患者数					
	13週	14週	15週	16週	17週	18週
	3/23～	3/30～	4/6～	4/13～	4/20～	4/27～
インフルエンザ	0.30	0.20	0.13			0.01
ＲＳウイルス感染症	0.11	0.02	0.07	0.02	0.09	0.05
咽頭結膜熱	0.20	0.14	0.23	0.66	0.30	0.39
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2.86	2.61	2.84	2.95	2.36	1.55
感染性胃腸炎	1.43	1.25	1.32	1.30	1.18	0.48
水痘	0.48	0.18	0.25	0.07	0.18	0.18
手足口病	0.18	0.14	0.14	0.09	0.07	0.02
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.25	0.30	0.55	0.27	0.20	0.14
突発性発しん	0.30	0.41	0.32	0.59	0.39	0.30
ヘルパンギーナ	0.02	0.05		0.02	0.09	0.02
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05	0.02	0.02		0.02	0.05
急性出血性結膜炎	0.13					
流行性角結膜炎	0.50	0.25	0.13			
細菌性髄膜炎				0.08		
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.42	0.25	0.08	0.50	0.08	0.33
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2)　疾病別・保健所管内別発生状況　　(第18週、4/27～5/3)

疾　患　名	定点当たり患者数(県・保健所管轄別)										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.01						0.13				
ＲＳウイルス感染症	0.05		0.20								
咽頭結膜熱	0.39		1.20		0.25	0.33					1.00
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.55	1.17	0.80	0.50	1.00	5.17	0.80	2.00			3.50
感染性胃腸炎	0.48	0.33	0.40		0.50	0.83	0.20	2.00		0.50	
水痘	0.18	0.50		1.00	0.25			0.67			
手足口病	0.02	0.17									
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.14		0.20	1.00			0.20				0.50
突発性発しん	0.30	0.50	0.10			0.83	0.40	0.33			0.50
ヘルパンギーナ	0.02										0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05	0.17							0.25		
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎											
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.33	1.00		1.00				2.00			
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											